

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 28日

事業所名 ハピリなの花

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		ダンボールなどの仕切りでスペースを分けている。	
	2 職員の配置数は適切である	4	2		送迎対応で職員抜けが生じるため、人力的な余裕がほしい。送迎の組み合わせなどを調整しながら余裕を生み出すよう工夫したい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	建物の構造上、スロープやエレベーター等は設置できないが、見学の際に物理的な構造を理解いただいた上で利用を決定いただき、できるかぎりの対応努力をしている。	1階には静養室があるためクールダウンできる場所があるが、同じ空間が2階にはないため、倉庫の一部をクールダウンできる場所としても活用できるよう調整を行う予定。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		3つの指導訓練室があり、活動内容や目的に応じて使い分けている。	合理的配慮なども含めた改善が必要であると考えている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		現状に満足することなく、常に改善意識を持ちながら業務に当たるようにしている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者様の意見をもとに、児童および保護者の要望に応じたサービスが提供できるよう努める。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		この評価結果については、集計した後にホームページに掲載し、掲載した旨についても通信でお知らせする予定。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		評価は未実績。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			平日開催の外部研修になかなか参加できていないため、職員の学びたい意欲に応えるよう、業務を調整しながら参加できるよう配慮したい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		保護者様や関係機関から情報を収集した上で個別に対応した計画を作成するよう努めている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		客観的なアセスメントツールは活用していないが、専門職(作業療法士など)による活動および行動評価などから1人ひとりの課題を捉えるよう努めている。	左記の評価を、様々な職種で共有し、多面的な視点をもって1人ひとりを捉えるようにしていきたい。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		支援記録表と計画書をセットにしておくことで、常に計画にそった支援が行われるよう配慮している。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	ミーティングの機会を設け、個別性に配慮した活動プログラムを立て、支援するよう心掛けている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		個々の課題と、課題達成度に応じて、活動プログラムの内容や難易度を調整している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		支援の計画に対応した支援を行い、その結果から振り返りを行い、日々の支援が繋がっていくよう心掛けている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		記録が支援の検証・改善につながることを意識しながら記録を残している。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		目標に対して、達成度や支援の方向性を見直すようにしている。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6			関係機関との連携がもっと密にとれたらいいと思う。相談員に対する毎月の報告だけでなく、随時、必要な情報を共有しながら課題に対応していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6			病院等との密な連携はなかなか難しいが、保護者様を通して情報集をしたり、連携をとったりしている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	1		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			移行支援会議に参加し、就学に向けた課題を共有したり、支援実績について報告したりしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1		研修は行われている。より詳細な助言を求めて当事業所から働きかけていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4		活動として保育園との交流の機会はないが、在園の保育園生活を基本としながら当事業所の療育も受けることができるようにしている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4		当事業者やその保護者が運営する会などに参加するようにしている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時などに、できるだけ時間をつくって話し合うように心がけている。また、相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	1		保護者の様子や関係性に応じて、負担になりすぎないできる限りの支援を心掛けている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			普段から話しやすい雰囲気づくりを心掛けて、些細な事でも言ってもらえる関係作りを心掛けている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			現在、ピアサポートの場になるよう年に2回開催している。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			相談や要望に関する対応の限界はありながらも、創意工夫をこらしながら、要望に応えるよう努めている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月、通信を発行している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			個々の理解力に応じて、非言語的コミュニケーションも取り入れながら対応している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4		新型コロナの影響を考慮しながら、地域の方も招いた活動を取り入れ実施したい。地域住民の方を施設に招くことはなかなかできないが、散歩活動時などには積極的に挨拶を交わしている。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1		様々な場面や出来事を想定しながら訓練を実施し、対応できる技能をチームで身に付けていきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		火災訓練を年に2回実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		薬の管理方法などを含め、常に意識するよう心掛けている。定期的な研修開催により、学び直しを行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		年度末に指示書を更新し、食物アレルギーに関する情報を見直し、再確認するようしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		随時、出来事に対する報告を挙げ、チームで改善できるよう努めている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		虐待防止および身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			